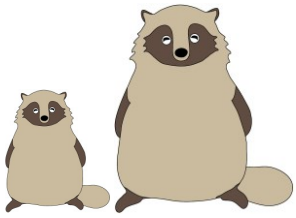
ななぬ山だより　５３号

2021 年 10 月 10 日　なな山緑地の会発行



私見的な木工クラブの話　～竹工ジイサンの話～

中山 茂樹

木工クラブは、なな山緑地の会が火曜日に活動するために相田さんが始めたものだと承知している。木工クラブは、私にとってシノタケ・ヒンメリを始めたキッカケになった場所だが、主に、やってきたのは多摩めかいの会のみなさんを観ながらヒネ切りをしたり、どんぐり山で教えてもらった孟宗竹のコップ作りだったりで、そもそも木工を楽しんではいない。その後もシノダケ・ヒンメリづくりで、実態は、「一人竹工クラブ」である。・・「竹も木の内」ではあるけど。

そんなことになっている理由は、相田さんの口癖「何やっても好いんだよ～」だと思う。相田さんは、好奇心が旺盛で、発想が自由だ。幅広く里山や水辺などの環境保護に関心を持ち、学校やその他でその啓発・交流の活動をしている。そんなことの関係で私も、エコフェスタや子供の日のイベントスタッフとして引っ張り出された。ブンブンゴマばかりではなくシノタケ・ヒンメリづくりもイベントでやることになった。出ていく場所が拡がって、大学で講義までおこなってきた。

そう考えると木工クラブは、「なな山緑地の会の地域交流事業活動を支える別動隊」ということになる。話が大袈裟になっているが、イベントに参加するにも材料の用意や準備などやることは多い。それを担ってきたのが木工クラブということになる。

「別動隊」と言うと同じ別動隊の「畑クラブ（勝手にそう呼んでいる。）」の話を外せない。我々が畑の収穫を喜べるのは、定例活動日だけでは生まれない。高橋さんの作物のタイミングに合わせた苗の植え付けや芽欠き、正岡さんの夏の水やりなど日々の手入れのお陰である。横で観ていると、「農業に休みはない」のである。里山なな山は、様々な活動で支えられていることになる。そう考えると、なな山緑地は会員の定例活動日だけで支えられているのでは無い。今年に入って、東の山のシノダケ林の間伐を行った。めかい材のためのシノダケの育成という目的があり、木工クラブで行った。東の山で、多様で豊かな植生に触れることが出来た。まだまだ出来ることがある、奥行きのある里山だと感じた。その作業の過程で、季節の花を探し求めて散策に訪れる人の多いことを知った。山野草の環境を守るための仮囲いや周りの草刈り作業も木工クラブの中で時間を取って行われてきた。

ちなみにシノダケ・ヒンメリは、相田さんの「山の厄介者のシノダケを何かに使えないか」という発想から生まれた。相田さんは、毎年、正月飾りの門松を造り、一去年前には杵と臼を作った。それで美味しい突き立ての餅を食べることが出来た。私は今、シノダケでクリスマスリースの土台作り普及させようとしている。何かを期待している訳ではない。「何でも好きなことをやって、周りに受け入れてもらえれば好い。」・・木工クラブのもっとうである。「なな山で遊ぶことを愉しむ人のクラブ」ということになる。

本格的なヒンメリづくりを楽しむ ー講座開催

9 月 23 日「シノダケ・ヒンメリを作ろう」（多摩市グリーンボランティア連絡会主催、なな山緑地の会協力）が多摩市立グリーンライブセンターで開催された。当初午前のみだったが、定員を超える申し込みがあり、午前・午後の 2 回開催になり、15 名が正八角星づくりにチャレンジした。

まず基本テクを習得しながら正八面体を作る。講師・中山さんの指示に従ってシノダケ材にワイヤーを通す。次は正八角星づくり。角（つの）の追加には空間認識が欠かせない。はじめ手間取ることもあったが、全員正八角星が出来て満足の様子だった。

なな山緑地の希少植物観察会　　日にち：5月1日（土）

なな山にご近所さんがやってきました。近くの百草団地や戸建住宅の人、児童館のファミリーが、春の植物を観察に集まる。題して「なな山緑地の希少植物観察会」。三方の森ふれんど、東寺方児童館、それに当会の協力イベント。参加された担当の方から感想です。

豊かな植生だなあ！説明を聞きながら、図鑑と比べながらの第一印象です。
日々なな山のまぶしい新緑を目の当たりにしていますが、中に入るのは初めてでした。
キンラン、ギンラン、エビネ、サイハイランなどの名前は聞いたことはありましたが、野生種として木漏れ日の中でひっそりと咲いている様には、神々しささえ感じました。
落葉の季節、また違う顔に出会いたいものです。（三方の森ふれんど　住安 隼夫）

『なな山緑地をのぞいてみよう』というタイトルで、子どもたちに呼びかけました。当日は、好天で、緑地を歩くには絶好な日和でした。
ご挨拶の後、早速、里山へ…アスファルトとは違って、とっても優しい足裏の感触！気持ち良かったなぁ～。そして新緑のにおい♡…「キンラン」「ヤマユリ」「シイタケ」「ミョウガ」「アズマネザサ」「サイハイラン」etc.たくさんの草花、樹木の話をしていただきながら楽しみました。自然が好きな親子が集まってくれたこと、活動されている方々がとても素敵にお話ししてくださったことで本当にいいひとときを共有することができました。
髙木さんにお誘いいただき、なな山緑地の保全活動をされている方々のおかげで、児童館からも子どもたちを連れて行くことができました。ありがとうございます。また、是非お邪魔させてください。（東寺方児童館　黒川 桂子）

多摩の里山と人の営み ― 帝京大里山探検　　日にち：5月14日（金）

帝京大「多摩の里山と人の営み」（里山実地体験学習）が開催され、甲野先生と学生 48 人が参加しました。コロナ禍で密を避け、距離を置いてできるだけ話を控える、といった対策を行い、講義内容もクイズ形式となりました。
西の山ではカシナガトラップの前に「これは何のためについているのかな?」とクイズ。ほとんどの学生がキョトン。「ナラ枯れ」は馴染みがない。ササダケ林と中の谷奥では植生の違いがクイズ。中の谷ではシイタケとナメコの原木栽培について質問。はじめはコロナ対策で会話を控えていた学生も少し声を出すようになり、質問も増えてきて距離を置いて質疑応答するようになる。最後に「為になりました」と挨拶され、サポートした甲斐がありました。

青山学院大ボランティア活動　　日にち：7 月11日（日）

青学ボランティアセンターの呼びかけに応えた学生たち 7 名がなな山で里山の環境保全活動を行いました。当会の活動と提携し、年数回継続していく予定。
はじめになな山を巡りながら植生や活動の概要を紹介。起伏が激しい西の山では息が上がる学生も。このあとシノダケの手刈りに挑戦。刈れば、常緑樹が多い中の山でも小さな植物たちが成長するはず。間隔をあけて一列に並び作業スタート。最初は要領を得ず少し苦労していたが、コツを覚えてからは作業が進む。午後は、ナラ枯れ対策用トラップにかかったカシナガをカウントする作業。虫が嫌いな学生はヒノキの皮むきと 2 班に分かれる。カシナガのカウントは 3 本のコナラで計 350 匹ほどを捕捉。ヒノキの皮むきでは、黒い皮をナタで剥き、現れた鮮やかな木肌に感動。

機材の修理よもやまばなし

須田　協

【刈払い機】　最近刈払い機の修理が増えてきました。
殆どの原因が燃料系統のトラブルで、燃料フィルターが汚れていたり、キャブレター内の燃料の詰まりが原因のようです。活動が二週間間隔ということもあって、不具合が発生し易くなるのでしょう。ガソリンも腐るので、一年中入れっぱなしで使わないとガソリンがドロドロになって詰まりが発生します。部品交換である程度元に戻ると思いますが、マフラーなど他の部分も劣化し交換が必要で回転部分のベアリングからも異音が発生しています。これの交換は専用工具が必要になるのでお店へ修理を依頼しなければなりません。工賃と部品代でかなり掛かると思われます。　現在、２台にトラブルが出ています。５年以上は使っているものと思われるので、草刈りのシーズンでもあり機材の入れ替えを検討しています。交換対象は２台。共立のあと２台は経過観察です。
【チェンソー】　チェンソーの刃が摩耗限度に達しているので刃(ソーチェーン)の交換をします。
機種は MS180C 4 台の内の 3 台です。このところ刃の減りが早くなってきているのでもう少し力のあるチェンソーのほうが良いのでしょうか。
【広場のテーブル】　女性陣が昼食で使われているスギのテーブルですが、2015 年 10 月に完成して防腐処理は一切しておらず、かなり劣化が進んでいます。そろそろ更新時期かなと思いつつ、サクラの伐採をしたときに材料となりそうな部位を広場へ持って来ようと思っています。
【カシナガ被害木の伐採】　カシナガ被害の有無に拘わらず、ななやまの 2000 本の内、胸高直径 40cm 以上は 200 本あります。この内約 100 本がコナラ、サクラは 70 本となっています。サクラは自ら枝を落としてくれるので太すぎるものから伐採してゆき、コナラはカシナガの被害状況を観察しながら、枯れた時点で伐採もしくは先行して太いものからあるいは被害木から順に伐採してゆくのが良いのではないかと思っています。出来れば広場まで搬出出来ると良いのですが、なかなか手がかかりそうです。

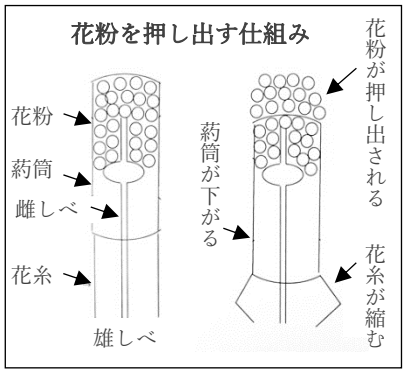
代表的樹木の本数表

胸高直径(cm)	本数	ヤマザクラ	コナラ	スギ	ヒノキ	他
80～	10	9	1	0	0	0
70～79	4	1	2	0	0	1
60～69	22	11	8	0	0	3
50～59	49	15	25	1	0	8
40～49	120	27	61	7	3	22
30～39	248	24	134	22	16	52
20～29	357	22	141	42	69	83
～20	1220	9	64	39	64	1044
計	2030	118	436	111	152	1213

ななし山植物誌

タイアザミ　大薊　キク科
（別名　トネアザミ　利根薊）

キクの季節です。なな山では中の山の東中腹にタイアザミ（トネアザミ）の一群があります。
アザミの仲間は、花全体が筒状花でできています。その先端（雄しべ）に白い花粉が点々と着いているのをよく見かけます。アザミ属の雄しべは濃紫色の筒状で、その中に雌しべが入っています。虫が雄しべに触ると、その刺激で雄しべの花糸が縮み、中の雌しべによって白い花粉が押し出されるのです。この時は雄性期なのでまだ受粉はできません。花粉が虫に食べられたり運ばれたあと、白い節のある雌しべがのびて雌性期に入り、受粉できる状態となります。雄性先熟です。小さな一本の筒状花の中にこんなに巧妙な仕掛けがセットされているのです。昆虫のふりをして指先で花粉の出ていない筒状花を触ってみて下さい。しばらくすると花粉が出てきますよ。　（中原）



花粉が押し出されている雄性期のノハラアザミ。

雌しべが出ている雌性期のタイアザミ。

なな山日記（活動・観察記録）

タイワンホトトギス

青学学生のヒノキの皮むき

ナラ枯れ状況報告

アメリカオニアザミ

ヒガンバナ

No. 408 2021年 5月 9日(日) 晴 気温 26 ℃
参加者 20人
緊急事態宣言中の為、午前中のみの活動となった。
● 作業/ カシナガトラップの製作・設置、草刈り、畑作業、希少植物の養生。
● 観察/サイハイラン、カザグルマ。

No. 409 2021年 5月23日(日) 曇後晴 気温 23 ℃
参加者 21人
午前中のみの活動。ナラ枯れ対策木に変化が出てきた。
● 作業/ ナラ枯れ対策、草刈り、伐倒、畑作業。
● 観察/サイハイラン(白)、ネジキ(花)、ウグイスカグラ

No. 410 2021年 6月13日(日) 曇 気温 26 ℃
参加者 20人
午前中のみの活動。シイタケを西の谷に本伏せした。
● 作業/ 草刈り、シイタケ、ナメコホダ木本伏せ。
● 観察/オカトラノオ、ヒメヒオウギズイセン。

No. 411 2021年 6月27日(日) 曇 気温 24℃
参加者 13人
バス通り・広場・法面の草刈り。午後は雨の為、中止。
● 作業/バス通り・広場・法面草刈り、ジャガイモ収穫 。
● 観察/アメリカオニアザミ、トウネズミモチ。

No. 412 2021年 7月11日(日) 曇 気温 28 ℃
参加者 20人
学生は草の手刈り、トラップ調査、木の皮むきをした。
● 作業/ 青学ボランティア活動サポート、伐倒計画調査、ヒノキの皮むき等。
● 観察/オオバギボウシ、ヤマユリ。

No. 413 2021年 7月25日(日) 晴 気温 30℃
参加者 20人
多数のナラ枯れ感染木発見。今後、処理について森木会と話し合いが必要。
● 作業/ 草刈り、ナラ枯れ観察、畑作業。
● 観察/タイワンホトトギス、ヨウシュヤマゴボウ。

No. 414 2021年 8月22日(日) 曇後晴 気温 31℃
参加者 17人
午前中のみの活動、中の山でもナラ枯れ被害確認。
● 作業/ 草刈り、ナラ枯れ調査、刈払機の保守整備。
● 観察/ツリガネニンジン、フヨウ。

No. 415 2021年 8月29日(日) 曇後晴 気温 29℃
参加者 16人
8/8 の振替活動。三方の森の団地の方が体験参加。
● 作業/ 草刈り、ナラ枯れ調査、側溝清掃、刈払機整備。
● 観察/ゴンズイ、シュウカイドウ、ノブドウ。

No. 416 2021年 9月12日(日) 曇 気温 25 ℃
参加者 19人
午前中のみの活動。涼しい気温で作業がはかどった。
● 作業/ ナラ枯れ調査、畑作業、草刈り、苗床場所作り。
● 観察/キバナアキギリ、ヤマホトトギス、センニンソウ。

No. 417 2021年 9月26日(日) 曇 気温 20℃
参加者 19人
ナラ枯れ打ち合わせで今後のなな山のあり方について話し合いをした。
● 作業/ 草刈り、畑作業、ナラ枯れ全体打ち合わせ。
● 観察/ガンクビソウ、ヒガンバナ。

編集後記

なな山は今、コロナ禍とナラ枯れという二大災厄のなかの活動となっています。しかしこの苦難にめげることなく、刈払い作業、畑作業、清掃作業などを着実にこなし、また植物の観察保護、木工クラブなどを楽しんでいます。さらにナラ枯れ後の将来を見据えてどんな活動ができるか話し合いも始めています。さあ皆で力を合わせて頑張りましょう。 k

なな山だより 第53号 2021年 10月10日発行
発　　行　なな山緑地の会
発行責任者　宮﨑 裕
住　　所　東京都多摩市関戸 2-9-6
ホームページ　https://nanayamaryokuti.jimdofree.com/
編集委員　鎌田 文雄　飯田 歩